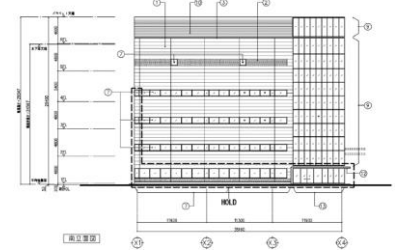


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第一三共プロファーマ株式会社平塚工場 試験棟	階数	地上5F
建設地	平塚市新町622-1他	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条区域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2019年2月13日
敷地面積	3,164 m ²	作成者	清水建設株式会社
建築面積	1,208 m ²	確認日	2019年2月13日
延床面積	6,097 m ²	確認者	清水建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO₂排出量の低減に努めている。 		
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。 	<p>その他</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 外皮性能を高め、効率のよい空調機器・全面的なLED照明の導入など、高効率な設備システムを導入することで省エネルギー化を図っている。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。 敷地内に屋外広告照明の設置は避け、周辺的光害抑制を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される